

身障協「個別支援の実現に向けたケアガイドライン」(改訂新版) 発行にあたって

今日も私たちのサービス提供と事業経営を取り巻く制度環境はめまぐるしい動きを見せています。しかしながら、施策や制度がどのように改編されようとも、日々のサービス提供に関わるさまざまな実践を、さらに充実させていくことの必要性は変わりません。

身障協では、会員施設におけるさまざまな生活上の困難やニーズを抱える方々に対する個別支援の実現に向けて、「サービスの質の向上に向けた実践モデル例の検討特別委員会」を平成20年度に設置し議論を進めてきました。

平成22年3月には、各会員施設において、個別支援の実現のために不可欠となるサービス提供体制の充実やサービスの質の向上と標準化をさらに進めていただくことを目的として、常時介護と医療的ケアを必要とする障害者を支援する障害者支援施設における個別支援のために求められる取り組み、また、日々の支援内容やサービス提供体制に関わる事項を整理し、身障協「個別支援の実現に向けたケアガイドライン」(暫定版)をとりまとめました。

策定時から継続的に見直すことを予定していたため、平成23年度より、本会調査研究委員会において議論を重ね、会員施設へのアンケート等も行いながら、改訂したものが本冊子です。

ケアガイドラインは、支援の基本的姿勢や、個別支援の実現とサービス提供体制に関わる内容、また、日常的な生活支援や良質かつ安心・安全な支援のための仕組みづくり、さらには、地域を支える福祉拠点としての取り組み等の内容で構成されています。

「身障協ビジョン2011」においても、「良質なサービスの提供」、「サービスの質の向上」を掲げており、ケアガイドラインやチェックリストは質の保証を図るためのツールとして考えています。

常時介護と医療的ケアを必要とされる方々への支援を中心に行う会員施設が、サービスの多様化や質の向上に向けての一助とし、個別支援の充実や日常生活支援と社会生活支援の両面でのサービス提供体制の充実につなげてくださることを期待します。

平成26年3月

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国身体障害者施設協議会
会長 日野博愛